

別記様式（第4条関係）

会議録

会議の名称	令和元年度第1回加東市まちづくり推進市民会議																				
開催日時	令和元年8月23日（金）午後2時～午後4時10分																				
開催場所	社公民館 2階 研修室																				
議長の氏名（座長 梅野巨利） 出席及び欠席委員の氏名 ＜出席委員＞ <table border="0"> <tr> <td>・古田 照代</td><td>・岸 本 吉 晴</td><td>・梅 野 巨 利</td><td>・須 田 康 之</td></tr> <tr> <td>・遠 藤 久 男</td><td>・小 島 加 津 子</td><td>・植 田 真 由 子</td><td>・笠 井 郁 男</td></tr> <tr> <td>・田 尻 信 生</td><td>・山 本 直 樹</td><td></td><td></td></tr> </table> ＜欠席委員＞ <table border="0"> <tr> <td>・山 本 洋 介</td><td>・井 上 綾 乃</td><td>・宇 都 宮 卓</td><td>・黒 崎 和 子</td></tr> <tr> <td>・平 川 米 一</td><td>・村 上 加 奈 子</td><td>・山 口 敬 晶</td><td></td></tr> </table>		・古田 照代	・岸 本 吉 晴	・梅 野 巨 利	・須 田 康 之	・遠 藤 久 男	・小 島 加 津 子	・植 田 真 由 子	・笠 井 郁 男	・田 尻 信 生	・山 本 直 樹			・山 本 洋 介	・井 上 綾 乃	・宇 都 宮 卓	・黒 崎 和 子	・平 川 米 一	・村 上 加 奈 子	・山 口 敬 晶	
・古田 照代	・岸 本 吉 晴	・梅 野 巨 利	・須 田 康 之																		
・遠 藤 久 男	・小 島 加 津 子	・植 田 真 由 子	・笠 井 郁 男																		
・田 尻 信 生	・山 本 直 樹																				
・山 本 洋 介	・井 上 綾 乃	・宇 都 宮 卓	・黒 崎 和 子																		
・平 川 米 一	・村 上 加 奈 子	・山 口 敬 晶																			
出席した市の職員の氏名及びその職名 ＜事務局＞ <table border="0"> <tr> <td>・まちづくり政策部長 小林 勝 成</td><td>・まちづくり政策部企画政策課長 下 岡 正 裕</td></tr> <tr> <td>・まちづくり政策部企画政策課副課長 山 本 幸 平</td><td>・まちづくり政策部企画政策課係長 小 林 寿 泰</td></tr> <tr> <td>・まちづくり政策部企画政策課主事 横 山 寛 之</td><td></td></tr> </table> ＜事務局以外＞ <table border="0"> <tr> <td>・教育振興部長 西 角 啓 吾</td><td>・こども未来部長 広 西 英 二</td></tr> <tr> <td>・こども未来部参事兼学校教育課長 後 藤 浩 美</td><td>・教育振興部教育総務課長 菅 野 勇 一</td></tr> <tr> <td>・教育振興部学校給食センター所長 簗 田 順 子</td><td>・教育振興部生涯学習課長 長 田 徹</td></tr> <tr> <td>・教育振興部中央図書館長 田中美紀子</td><td>・こども未来部小中一貫教育推進室長 柴 崎 俊 之</td></tr> <tr> <td>・こども未来部発達サポートセンター所長 片 嶋 美 紀</td><td>・こども未来部こども教育課長 壺 井 初 美</td></tr> </table> ほか10人		・まちづくり政策部長 小林 勝 成	・まちづくり政策部企画政策課長 下 岡 正 裕	・まちづくり政策部企画政策課副課長 山 本 幸 平	・まちづくり政策部企画政策課係長 小 林 寿 泰	・まちづくり政策部企画政策課主事 横 山 寛 之		・教育振興部長 西 角 啓 吾	・こども未来部長 広 西 英 二	・こども未来部参事兼学校教育課長 後 藤 浩 美	・教育振興部教育総務課長 菅 野 勇 一	・教育振興部学校給食センター所長 簗 田 順 子	・教育振興部生涯学習課長 長 田 徹	・教育振興部中央図書館長 田中美紀子	・こども未来部小中一貫教育推進室長 柴 崎 俊 之	・こども未来部発達サポートセンター所長 片 嶋 美 紀	・こども未来部こども教育課長 壺 井 初 美				
・まちづくり政策部長 小林 勝 成	・まちづくり政策部企画政策課長 下 岡 正 裕																				
・まちづくり政策部企画政策課副課長 山 本 幸 平	・まちづくり政策部企画政策課係長 小 林 寿 泰																				
・まちづくり政策部企画政策課主事 横 山 寛 之																					
・教育振興部長 西 角 啓 吾	・こども未来部長 広 西 英 二																				
・こども未来部参事兼学校教育課長 後 藤 浩 美	・教育振興部教育総務課長 菅 野 勇 一																				
・教育振興部学校給食センター所長 簗 田 順 子	・教育振興部生涯学習課長 長 田 徹																				
・教育振興部中央図書館長 田中美紀子	・こども未来部小中一貫教育推進室長 柴 崎 俊 之																				
・こども未来部発達サポートセンター所長 片 嶋 美 紀	・こども未来部こども教育課長 壺 井 初 美																				
1 議題等 (1) 副座長の選出 (2) 報告・協議事項等 ①令和元年度加東市まちづくり推進市民会議における協議スケジュール・内容等について ②第2次加東市総合計画前期基本計画の進行管理（施策評価）について 2 会議資料 【資料1】加東市まちづくり推進市民会議設置要綱 【資料2】加東市まちづくり推進市民会議について 【資料3】令和元年度加東市まちづくり推進市民会議における協議について 【資料4】〔評価シート例〕平成30年度第2次総合計画前期基本計画施策評価シート 【資料5】平成30年度第2次総合計画前期基本計画施策評価シート〔政策Ⅰ・Ⅱ〕 3 会議の経過 ⇒別紙「第1回加東市まちづくり推進市民会議・会議の経過」のとおり																					
令和元年 10 月 × 日 座 長 梅 野 巨 利 副座長 岸 本 吉 晴																					

(別紙) 第1回加東市まちづくり推進市民会議・会議の経過

発言者	会議の経過／発言内容
	1 開会 2 座長挨拶 3 副座長の選出 4 報告・協議事項等 (1) 令和元年度加東市まちづくり推進市民会議における協議スケジュール・内容等について ○資料について事務局から説明 (2) 第2次加東市総合計画前期基本計画の進行管理（施策評価）について ○政策1主要施策1、5及び6の一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】
委員	◆主要施策(1)小中一貫教育の推進 ・平成30年度は予定どおり、実施設計に遅れなしということでA評価となっているが、令和元年度になって入札が不調になり、開校年度も含めてもう一度議論が必要な状況になっている。多少の課題はあるが、全体としては行っているというものについては、ほかの主要施策との比較で言うと、B評価になるのではないかと。若干の課題があるとして評価する方が市民感情としては納得できるのではないかと。若干の課題もある。説明があったように、あくまで平成30年度分として評価するのか、8月のこの時点で、多少の見直しや改善を含めて評価した方がいいのか、まず事務局に確認をしておきたい。その上で皆さんがどう思われるのかをお聞かせいただきたい。私は、素直な感情から言うと、あれだけ大きな新聞記事にまでなったものが何の問題もなく極めて限りなく順調に進んでいるという評価をするのはいかがなものかと思う。
課長	・いろいろな改善事項などがあると思うので、そういった部分を含めて評価していただけたらいいが、あくまでも平成30年度の取組に対する評価をいただけたらと考えている。
議長	・確かに気持ちとしてはそういうところがあるかもしれないが、どこかで切らないと評価ができなくなると思う。年度で評価していくというのが原則であり、これは揺るがせないのではないかと。よって、おそらく次年度においては、評価が下がるということになるのではないかと。平成30年度で切るという事務局のスタンスで良いか。
議長	〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
委員	・平成31年3月31日までの取組ということで評価していくことにする。
委員	・資料中の平成を令和に改めるべきだと思う。
係長	・総合計画書の内容をそのまま転記している部分であり、その旨御理解いただきたい。
委員	・総合計画書の67ページ、学校教育の充実、小中一貫教育の推進のまちづくり指標「小中一貫校スクールバス運行及び通学路再編校数」とあるが、目標値が1校とかなりアバウトかなと思う。もう少し細かくどの地域までを整備したとか、進み具合が分かるように見直していただいた方がいいのではないかと。思う。
係長	・まちづくり指標については、物理的には変更できるが、この総合計画書は、議会の議決を経て定めたものであることから、ここに載っている内容を変更するには再議決が必要となる。その状況も踏まえ、一例ではあるが、指標をもう一つ追加するというような方法も考えられるのではないかと。思うが、一度検討させていただきたい。
委員	・例えば、小数点で進捗を示すという考え方もあると思う。
議長	・この指標が議会を通った固定されたものであるとするならば、取組の中にももう少し具体的に、どこまでやったのかなどの記載があれば、あえて指標の設定まではしなくても市民の理解が得られるのかなと思う。ということで、良いか。
委員	・それで良い。
委員	・令和3年度に開校するということが着地の目標であることから、それが今、達成

室長	きる見込みなのかどうかということは追加した方がいいのではないかなと思う。記載内容からすると、ほぼ1年ぐらいうれ込みそうなので、計画が達成できるかどうかを含めて見込みを聞きたい。また、その見込みを記載してはどうか。 ・まず、工事に関しては、国から補助金をいただく関係上、工期が2か年しか認めてもらえないことになっている。今年度、入札が不調になり、今年度中に再入札した場合、工期が2か年をオーバーする状況にもなりかねないことから、令和2年度に再入札を行い、令和3年中に工事を終わらせたいと思っている。そのために、単独工事とはなるが一部工事の先行発注を行い、補助金の対象にならない部分の工事を進めながら、全体の工期をできる限り短縮したいと考えている。もう一つ、開校に関しては、ハードの方は間に合わないが、ソフトの方として令和3年度に義務教育学校として開校したいという考えで今調整を図っている。
議長 委員	・今の説明にあった内容が、もう少し入っているといいかなと思う。 ・建設工事の入札が不調に終わったというのは、思いがけないいろんな事情が出てきたためなのか。遅れとか金額的なこととかいろんな問題を変にうやむやにせず、きちんと時間をかけて立ち直った上で、整備していくことはいいと思うので、帳尻だけ合わすということを優先しないで、きっちりとやってもらいたい。
部長	・不調の原因としては、5月24日に入札を行ったが、実際の申し込みが1者で、その者が予定価格を上回ったため契約まで至らなかったということである。あくまで推測であり、これが全てかどうかはわからないが、今、東京オリンピックに関しての需要が大きくて、東京の方に職人とか技術者が集中しているという情報が入っている。先ほど説明させていただいた一部外構を今年度に行い、来年度に校舎について発注をかけたいと考えている。計画自体には問題はなく、見直しは今のところ考えていない。
委員	・1者しかなくて大幅に高いということなので、結局見積もり、バランスやいろんな相場とか、明確にされる方が望ましいと思う。
部長	・公共事業ということで、積算については問題なかったと認識しているが、次年度に向けては、また次の積算をするので、反省点についての見直しは必要課題と思っている。
委員	・10月1日から消費税の増税があって、建設工事については、厳密に言うと、契約を済ませて竣工までの期間がある一定のものは現行の8%でできると思うが、10月までに契約すれば8%で済んだのが、それ以後の契約になれば10%になるということは予算に絡んでくるので、記録として残して、後から説明ができるようにしておいてほしい。
部長	・消費税であるが、契約時点での消費税率ではなくて完成時になるので、設計では当初から10%で積算している。
議長	・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もAとする。
議長	◆主要施策(5) インクルーシブ教育の充実 ※質疑応答等なし ・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もAとする。
委員	◆主要施策(6) 幼児教育と保育サービス等の充実 ・まちづくり指標「病児（病後児）保育利用登録者数」が145.2%と目標達成されているが、需要と供給のバランスは大丈夫なのか。
課長	・登録については、平成27年度の開設以降、順調に伸びているが、実際の利用では、この人数には届いておらず、平成30年度の延べ利用者数は235人となっている。インフルエンザの流行時などのときには、利用定員4人を超える問合せ等もいただいているが、通常の時期は、ほぼ受入れができています。
委員	・3人待機児童が出たということでおそらくB評価になっていると思うが、どれくらいの方が加東みらいこども園に入園することを希望されていて、3人の措置ができた

課長	かったのかという数字を教えてください。 ・3人については、平成30年4月1日の待機児童数であり、加東みらいこども園を開設する前ということになる。今年度開設して、4月1日に1人と、減少させることはできたが、ゼロにはできなかったという状況である。
委員 課長	・加東市全体としては、どれくらいの受入れ枠があるのか。 ・全体の定員枠は、保育園、認定こども園を合わせて、0歳から5歳までのトータルで1,320人である。定員については、弾力運用ということができ、2割増しまでの受入れとして、もちろん保育士の配置基準や面積基準の範囲でということになるが、多めに受入れをすることも可能である。令和元年5月時点、市内の園では1,288人となっており、定員を超えた受入れをしている施設もあれば、定員に達していない施設もある。また、入所決定はしているが、5月時点で利用されていない方もある。育休明けが5月以降という方は、その年度途中からの利用ということになるので、そういった部分を含めると、全体として0歳から2歳までについてはほぼ受入れ枠はないが、3歳から5歳までについては現時点でも多少御案内できる園はあるという状況になっている。
議長	・一次評価はBであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もBとする。 ○政策1 主要施策2から4までの一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】
議長	◆主要施策(2) 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成 ※質疑応答等なし ・一次評価はBであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もBとする。
委員	◆主要施策(3) 心の教育の推進 ・主要施策を構成する主な事務事業の7番目の不登校対策事業について、適応教室が狭くて、入りたくても入れないという話を聞いているが、今後どうされていくのか。また、完全6人、部分1人という成果があるが、どれぐらいの不登校の児童・生徒がいるうちのこの人数なのか教えてほしい。
参事	・適応教室については、社武道館の1室を利用しており、昨年度は8人の通級者があり、全員がそろろうと、かなりのにぎやかさになっていることに加え、1人だと来れる、少なかったら来れるが、たくさんになると来れないという児童・生徒もいるので、そういう点については課題があると思っている。また、市内の昨年度の不登校児童・生徒数が46人で、その中に適応指導教室に入っている子が含まれている場合もあれば、適応指導教室に行けば出席ということになるので、不登校にカウントされていない場合もあるが、実際送ってもらえないと来れない地域にいる子もあり、今後の検討課題であると認識している。
委員	・適応教室というのは学校に戻ることを前提としている教室だと思うが、学校に戻れない子もいると思う。適応教室に行って少し圧力がかかると、適応教室にも行けないという子もでてくると思うが、そういう不登校の子に対する対策は考えているのか。
参事	・家から出られないという子も実際あるので、適応教室に出てこれるというのは大きな一歩かと思う。中学3年生の卒業までなかなか学校に復帰しきれない生徒もいるが、少しずつ短い時間でも、あるいは何かのときにでも学校へ行くということを経験しながら、今までの生徒たちはほとんど、高校へ通えるという状態になってきている。
議長	・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もAとする。 ◆主要施策(4) 健全な子どもを育てる環境づくり

委員	・まちづくり指標の保護者等の学習会等実施回数38回のうち、情報モラル研修会を12回開催されて、その参加者合計が651人という理解で良いか。
参事	・情報モラル研修会は各校1回ではなく、複数回実施している学校もある。
委員	・それに保護者が参加したという観点か。
参事	・その通りである。
委員	・学校の先生が講師になっているのか。
参事	・講師に、警察やネット見守り隊の専門医など、専門の方をお呼びして、実態のお話とその対策について研修会を行っている。
委員	・予算はないのか。
参事	・予算については、消費者対策に関する補助があるので、生活環境課の方で対応している。
議長	・一次評価はBであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
	・二次評価もBとする。
	○政策Ⅱ主要施策7及び11の一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】
	◆主要施策(7)学校教育環境の整備充実
委員	・1つ目は、学校施設等の適切な維持管理で、耐力度調査を3校実施したとなっているが、調査を実施しなければいけないものはほかにあるのか。
	・2つ目は、新教育委員会制度へ移行することによって、事案に対して迅速に対応することができるようになったと書いてあるが、例えて言えばどういうものがどう迅速になったのか、わかるように教えていただきたい。
課長	・耐力度調査について、昨年度は、社中学校、東条東・西小学校で行った。社中学校については今後小中一貫校でその校舎を使う予定にしており、東条東・西小学校については、閉校が決まっているが、今後活用が可能かという観点で実施した。来年度以降は、社地域、滝野地域の小学校についても、必要があれば調査をしていく予定である。
委員	・私が今聞いているのは、必要なものがこれで、計画的にこうやるということなのか、この3校を調査したことにより、一度そういう調査は終わったという解釈をしていいのかということである。
課長	・東条地域は終わったが、今後社地域とか必要なところを決めていくので、調査としては終わっていない。
委員	・学校施設の適切な維持管理をやるという目標が挙がっている中で、安全性という面において、今調査をしておかないといけないものがあるのかということを知っている。必要なものが残っているのか、もう全部済んだのか、それとも一応済んでいるが、今後一貫校になったときに、跡地利用も含めて、念のためにやるという形になっているのか。
課長	・耐震については、100%改修は終わっている。ただ、今後、その施設を使っていくかどうかを判断するために、まだそういった調査の必要はある。
	・臨時の教育委員会を開く場合でも、教育長が常任でいるので、連絡もスムーズに行く。それから、例えば、いじめの問題等に対してすぐに教育委員会で話ができて、責任の所在もはっきりして、スムーズに対応できるという、そういった狙いもあって、新教育委員会制度に変わっている。
委員	・制度については、今言われたようなことだと思うが、事案に対して迅速に対応することができた、と書いてあるので、それはどんなケースなのかというのが質問の趣旨である。
課長	・例えば、具体的に言うと、社中学校の柔剣道場の使用を中止する際に、すぐに連絡ができて、教育委員会を開くことができたということがある。
委員	・最近、エレベーターの中に、簡易トイレであるとか、水分をとるとかできる緊急のキットというか、ボックスを置くことが、企業でもどんどん進んできているが、そういったことも先々考えられてはどうか。
課長	・設置については、今すぐここで判断ができないので、また相談させてもらいたい

委員	と思う。 ・市の取組の学校施設等の適切な維持管理の中に給食センターの内容が入っているが、ここに入れるべき内容ではないのではないか。
係長	・学校施設等の「等」の内容として、学校に関係する施設である給食センターを適切に維持管理し、食品の安全に取り組むということについては、大きく捉えてここに含まれると考えている。また、市の組織と取組を連動させるという大きな目的の下、この計画を策定しており、既に同計画に定めている内容であることから、御了承いただきたい。
議長	・一次評価はBであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もBとする。
委員	◆主要施策(11)図書館機能の充実 ・図書館施設の効率的な管理運営のところに記載がある指定管理者制度というのはどういうものなのか。これができなかったから取組評価が▲になったのか。
部長	・市が建設した施設の運営については、直営というのが一つの方法であるが、市が運営していくことと比較して、民間の知恵を出していただいて、より効率的に運営を行っていただくというのが指定管理者制度である。その例として、やしろ国際学習塾であれば、施設は市が設置しているが、加東文化振興財団を指定管理者として指定し、管理運営を行っていただいている。そういう中で、図書館についても、指定管理者制度の導入を検討するということにしているが、その検討自体ができていなかったということでB評価にしている。
委員	・取組評価の▲により、総合評価がBだと少しもったいないと思ったところもあった。指定管理者制度の導入により、図書館を公的なものではなく法人化するとか、そういうことなのか。
部長	・いろいろな手法について、それも含めて検討していくということである。
委員	・指定管理者制度の導入となると、なかなか大がかりであり、それを達成できた、できていないというのはちょっと難しかったのかなと思う。結構できているように成果が見えたので、もったいないと思っただけである。
議長	・調査研究に着手できなかった理由は何かあるのか。
館長	・特別な事情はなく、後回しになってしまった。
議長	・取り組む計画になっているが、やらなかったということであれば仕方ないかなと思う。 ・一次評価はBであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もBとする。
議長	○政策Ⅱ主要施策8から10までの一次評価内容について担当部署から説明 【質疑応答等】 ◆主要施策(8)市民文化の創造の促進 ※質疑応答等なし ・一次評価はBであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もBとする。
委員	◆主要施策(9)社会教育を支える土台づくり ・幅広い年代層に学習機会を提供できたという報告であったが、イメージ的には子供さんとか高齢者の方に偏っているイメージがある。各年代に提供できたという根拠的なことがあれば教えていただきたい。
館長	・子供向けについては、主に小学生のチャレンジスクールということで、夏休みを中心に行った各種体験の事業がある。大人に関しては、成人学習事業でパンづくりを行うなど、高齢者に限らず若い方にも参加していただくことで、幅広い年齢層に対する事業になったと考えている。
委員	・コンスタントにどの年代も参加されているということなのか。

館長 課長	・その通りである。 ・26ページ、27ページにそれぞれ細かい事業を載せており、そこに、把握できている範囲については延べ何人の参加があったということを書いている。昨年度の人数等と比較する中で、成果としては○という判断をしている。
議長	・一次評価はAであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もAとする。
議長	◆主要施策(10)生涯スポーツ・レクリエーションの推進 ※質疑応答等なし ・一次評価はBであるが、それで良いか。 〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕 ・二次評価もBとする。 5 その他 (1) 今後の会議開催日程について ○事務局から説明 (2) その他 6 閉会